

高島町(長崎県)におけるアイランドセラピー実現への取り組み : 次世代型健康づくりに関する考察と提案(その6)

著者	福岡 孝純, 本城 薫子, 鹿野 陽子, 田村 義男
出版者	法政大学体育研究センター
雑誌名	法政大学体育研究センター紀要
巻	20
ページ	51-62
発行年	2002-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/4061

高島町（長崎県）におけるアイランドセラピー実現への取り組み

— 次世代型健康づくりに関する考察と提案（その6） —

The Project to Realize Islandtherapy in Takashima town(Nagasaki pref.)
~The Study and Proposal on Health Care of Next Generation (part6)~

福岡孝純 (法政大学)
Takazumi Fukuoka

本城薫子 (日本スポーツ文化研究所)
Kaoruko Honjo

鹿野陽子 (日本スポーツ文化研究所)
Yoko Kano

田村義男 (法政大学)
Tamura Yoshio

はじめに

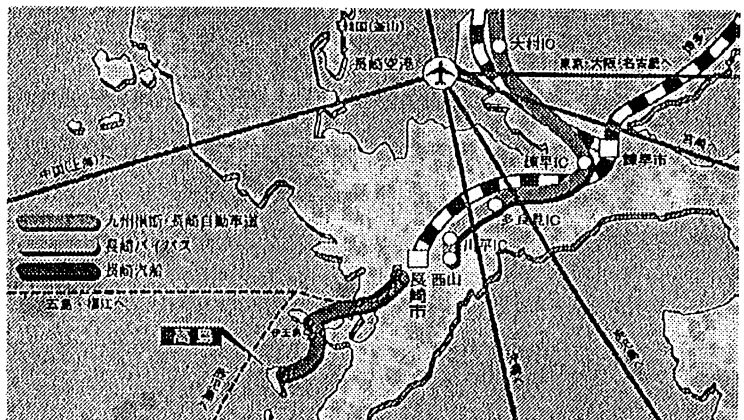
本稿は、先の瀬戸内海の事例¹⁾に続き、長崎県西彼杵郡高島町におけるアイランドセラピーへの取り組みを対象として、次世代型健康づくりに関する考察と提案を示すものである。

高島町では国土交通省の補助金を受け、アイランドセラピー（コミュニティ・アイランド構想）の実現に向け、海水温浴施設の建設の事業化を決定し、現在、施設の建設が進められている（平成15年竣工予定）。

1 高島町における取り組みの背景

高島町は、長崎市から南西海上14.5kmに位置し、高島、端島（軍艦島）、中ノ島、飛島の四島からなる（図—1）。四島の総面積は1.27km²で、面積においては日本で最も小さい町である。

現在建設中の海水温浴施設は、高島に位置する。この海水温浴施設



図—1 高島の位置

設は、タラソテラピーを行うことを主軸機能としており、本施設の建設は、平成20年を目標年次とする同町の総合計画（平成11年度）を上位計画として基本的な方針が策定されたコミュニティ・アイランド構想のためのガイドラインにしたがっている。コミュニティ・アイランド構想は、「健康づくり」をメイン・テーマとして離島に新たな魅力を付加し、それを地域経済の活性化等につなげていこうとするものである。

高島町唯一の有人離島である高島の面積は1.17km²、海岸線の総延長は6.4kmである。対馬暖流の影響下にあり、気候は比較的温暖で冬季は雨量が多い。年間平均気温は15～16℃で、年間平均降水量は2000mm前後、台風シーズンや冬場は海上交通に影響を受けやすい。標高114mの権現山を中心に広がる地形は海岸から山岳に盛り上がり、坂道が多い。島南部に広がる平地（再整備地区）には、炭坑内から排出される土石を人工的に積んだボタ山の存在が景観的に強い特徴を呈しているが、埋立て等の利用によって取り崩され、消失しつつある。本島の土地利用は宅地、道路等、都市的機能の施設占有率が総面積の約66%を占めており、森林、農用地、原野等は僅か9%である。島の周辺は県内屈指の好漁港であるが、現在の漁業従事者は23名（平成10年度）で年金生活者による零細な経営体がほとんどである。また、漁業権を有する水域が狭く、漁協は周辺の3町で合併（平成9年）されている。かつてはわが国屈指の産炭地であり、全盛期の人口は2万人にも達したが、炭鉱閉山後は流失が続き、現在は1000人台にまで落ち込んでいる（平成11年）と共に、高齢化が急速に進んでいる状況にある。就業別人口比率（平成7年度）は、第1次産業11%、第2次産業24%、第3次産業64%の構成であり、都市型を示しているといえる。

昭和49年の炭坑閉山以降は、産業転換の課題に対応すべく、平成3年、水産庁よりマリノベーション拠点漁港漁村総合整備計画の認定を受け、“石炭を魚に変えて島おこし”をスローガンに“ふれあい漁港、漁村整備事業”に取り組んでいる。

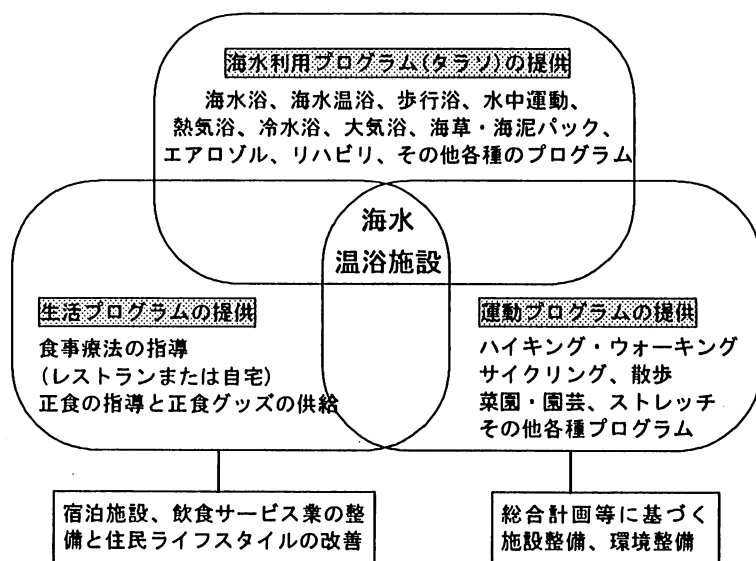
隣接する離島である伊王島町には、平成20年を目途に本土架橋が進められており、地域格差が減少されていく中で高島町独特のさらなる地域振興施策が求められている。高島町では過疎・高齢化の進行に対応すべく、種々の抜本的施策を行ったにもかかわらず、依然として町の活力低下が危惧されている。

このような状況下、高島町では一層の地域交流性を持って島の魅力を掘り起こし、新たな事業の推進に取り組む必要があるとして、現状に沿った健康・福祉の推進と新たな町おこし事業の展開が求められた。高島町におけるアイランドテラピー事業は、この二つの目的を同時に実現する施策として位置づけられたものである。すなわち、アイランドテラピーの実現には住民の健康・福祉への寄与と共に、ビジターに対しても来訪・滞在の魅力を向上することを通じて地域間交流の増大を促し、過疎・高齢化に悩む地域の活性化を図ることが期待されているのである。

2 海水温浴（タラソセラピー）施設整備 —事業コアの創出—

(1) 施設整備の目的

高島町においてアイランドセラピーが取り組まれることとなった背景には、社会構造の変化に伴い生活様式が変わりゆく中で、住民の健康を保持・向上すると共に地域間交流の促進により地域の振興を図るという目的があることは既に述べた。その目的を達成するためには高島町の良好な自然環境のもとで人間の持つ自然治癒力を引き出すために各種のアクティビティーが十分行える環境づくりを目指されなければならない。高島町では、環境づくりアイランドセラピー実現への具体的な施策展開の第一歩として事業コアの創出が決定された。ここでいう事業コアとは、すなわち、各種の健康づくり事業を推進しつつある高島町において、住民への対応のみならず島外からも多くの人々を集める海水浴場等のあること、海水のミネラル成分を豊か



図—2 海水温浴施設を中心としたアイランドセラピーのプログラム展開例

に含んだ空気に満ちていること等を考慮した結果としての、タラソセラピーが行える海水温浴施設である。タラソセラピーが行える海水温浴施設は、誰もが安全かつ快適に様々な入浴方法によって水のアクティビティ²⁾を体験することで海水の効果³⁾を享受できるものであり、アイランドセラピー事業の中核として重要な役割を担う存在として位置づけられている（図—2）。

これまでに高島町において展開してきた種々の健康づくり事業は、アイランドセラピー施策に包含されることにより、より一層充実総合化することが期待されている。既存の観光・レジャー・レクリエーション施設である松林に囲まれたキャンプ場、人工海浜の海水浴場、磯釣り公園、テニスコート、ゲートボールコート等は、アイランドセラピーの健康づくりプログラムに効果的にリンケージし、機能分担が期待されている。たとえば権現山の裾野を一周する道路は既にヘルシーウォーク大会等の開催実績があるが、この総延長およそ3kmの道路をアイランドセラピーの健康づくりプログラムに組み込んで、散策、ウォーキング、ジョギング、あるいは

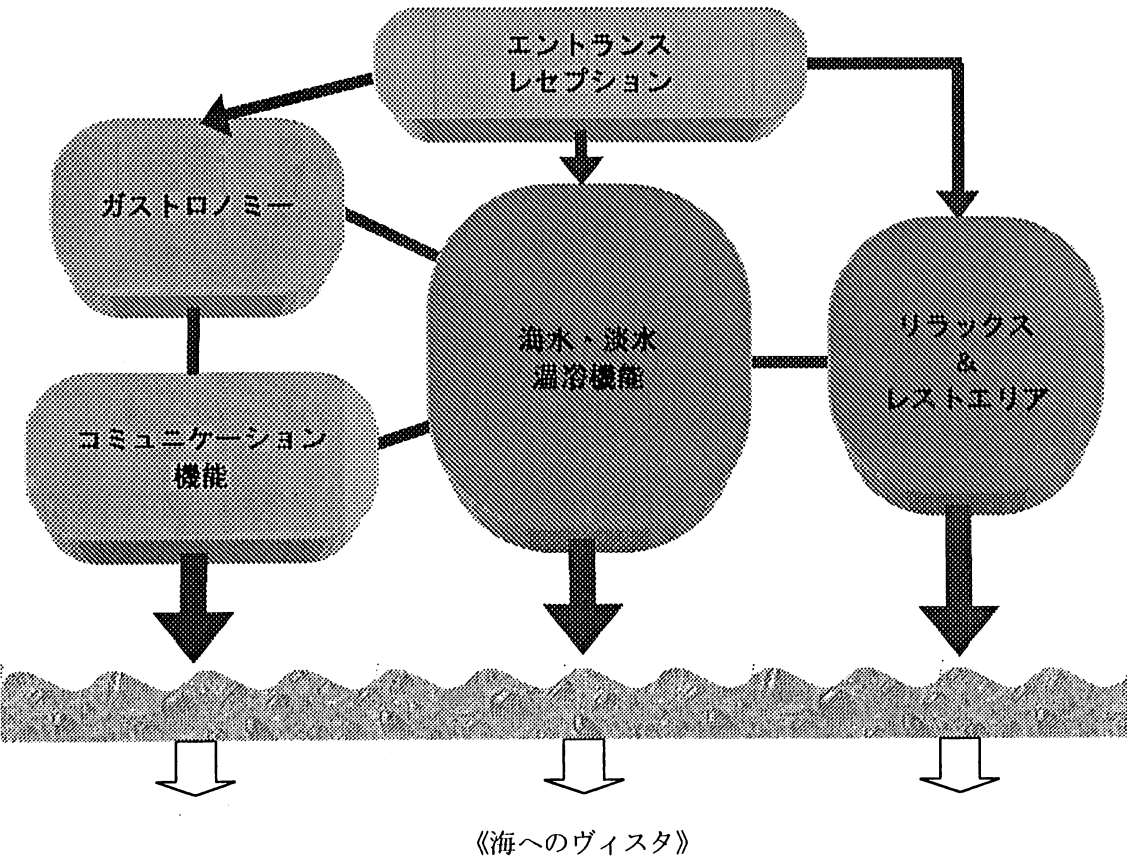
はボタリングコースとしてさらに活性化することができるのである。このように既に展開されている施策や実現された施設は、島を訪れて元気になり生命の甦りを図るというアイランドセラピー理念につながるものである。

海水温浴施設という具体的な施設がアイランドセラピーの活動拠点として創出されることによってアイランドセラピーの理念が実体験を伴って広く受け入れられていき、住民の健康の保持・増進と、ビジターへの魅力度増加による来訪者数のアップを図り、地域交流性の地域振興を高めていくことが効果的に可能となることが目指されている。

(2) 施設の具体的機能と空間構成のイメージ

高島町における海水温浴施設が有する主な機能は、次の4点が設定され、これらの機能の連携を目指した施設の空間構成のイメージは、図―3に示す通りである。

- ① 海水温浴機能…………… 各種海水利用風呂、
運動療法タブなど
- ② 淡水温浴機能…………… 薬湯など
- ③ リラックス・レスト機能…………… 癒し空間、休憩スペースなど
- ④ ガストロノミー・コミュニケーション機能…………… 飲食施設、宿泊施設など



図―3 施設イメージ

(4) 施設設計の基本方針

- ◇ユニバーサルデザインの導入
健康者や身障者を問わず誰にでも使いやすい施設づくりを目指す。
- ◇自然環境に配慮したデザイン
本施設は風光明媚な海に隣接して位置するため、自然環境とくに景観面に配慮する。
- ◇2L、2Hのデザイン
低価格（Low cost）で管理が容易(Low maintenance)で耐久性が高く、快適性・利便性(High quality)、効率性(High use)の高い設計を行う。
- ◇心やすらぐ空間デザイン
利用者がゆとりを感じ、居心地の良い(アメニティの高い)施設空間を提供する。

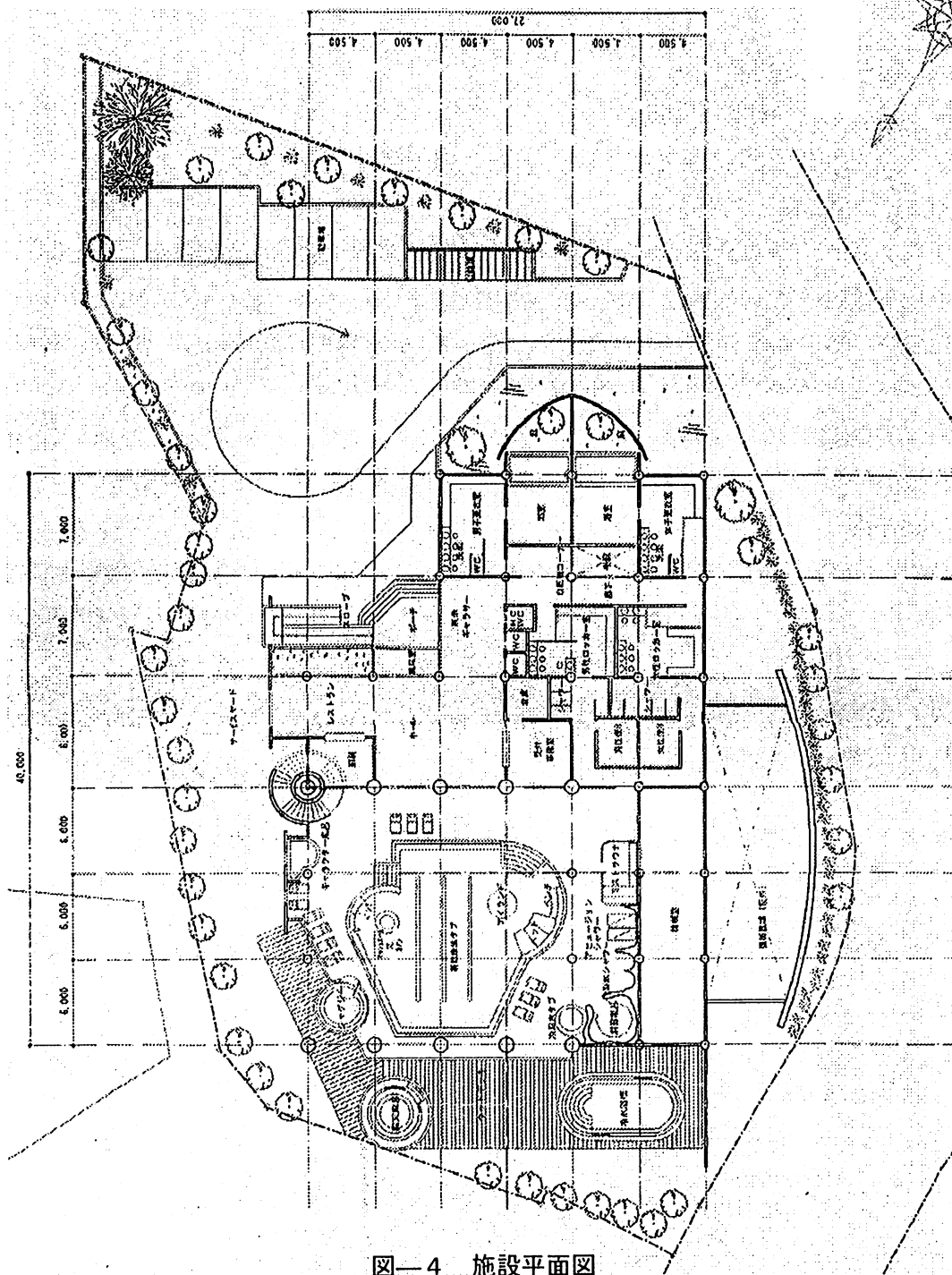
(5) 施設概要

具体的な施設構成は以下の通りである。

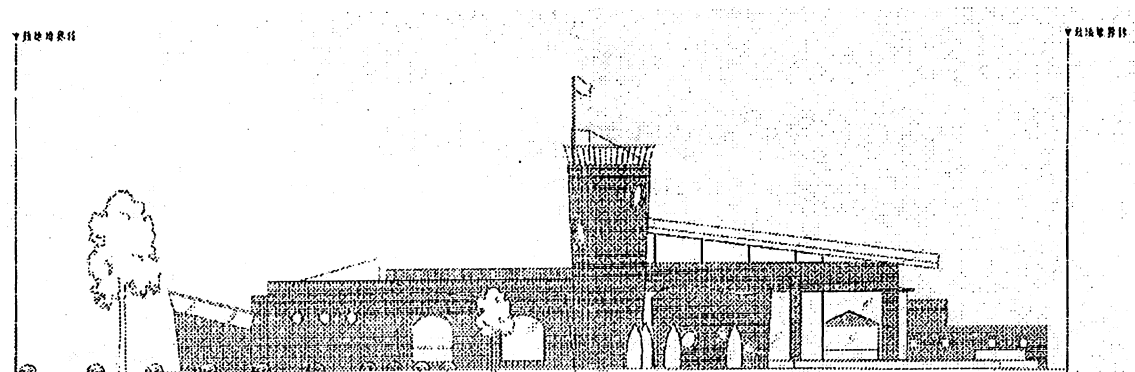
表—1 高島町海水温浴施設の施設構成

交流ゾーン	コミュニティゾーン	休憩コーナー及びベンチ 展示ギャラリー 特産物飲食・販売コーナー（レストラン）
健康増進ゾーン	海水温浴（タラソセラピー）ゾーン	屋内 洞窟風呂、アヒュージョンシャワー、 運動療法タブ（ウォークベンチ・ベッド等あり）、 海水ミストサウナ、冷海水シャワー、 ジャグジー、冷海水タブ等 屋外 海水露天風呂 夏期用海水浴槽
	淡水温浴ゾーン	キャラクター風呂 シャワー 淡水コミュニティ風呂
	休憩・リラックスゾーン	ドライ空間（寝イス、屋内緑化） 日光浴用ウッドデッキ
その他	管理施設	事務所、機械室、厨房等

用途地域： 指定なし防火地域： 指定なし
主要用途： 海水温浴施設（コミュニティ・アイランド事業）
構造概要： 鉄筋コンクリート（RC）造 平屋
敷地面積： 2,885 ㎡
建築面積： 1,123 ㎡（建ぺい率38.9%）
延床面積： 1,023 ㎡（容積率35.5%）



図—4 施設平面図



図—5 施設立面図

3 高島町におけるアイランドセラピー実現への二つの鍵

(1) マンパワーの確保と創出

高島町には、“石炭を魚にかえて島おこし”をスローガンに“ふれあい漁港、漁村整備事業”に積極的に取り組んできた経緯があり、アイランドセラピーの実現プログラムに則した活用を可能とするオープンスペースや既存のレジャー・レクリエーション施設も多い。特筆すべきは、磯釣り公園と人工海水浴場における実績である。平成10年に一部供用を開始した磯釣り公園は、翌平成11年度には年間約3万人、海水浴場では7～8月の2ヶ月間で約1万3,000人のビジターを受け入れており、その後、季節変動はあるものの観光客（ビジター）は常に年間約3万人を確保するにいたっている。この二ヶ所を舞台として様々な交流イベントを実施するなど、役場を中心とした住民の努力には頭が下がるものがあり、人口1,000人を割る小さなコミュニティがなし得たこの入り込み客数の拡大実績は、たかく評価される。アイランドセラピーは、地域づくりの考え方に立脚しており、離島住民の自然と共生する暮らしや産業の知恵、地域の歴史・民俗・文化の習熟度など、今ある住民のマンパワーを生かしていくことが基本である。したがってその推進には、地域住民が様々な形で参加してその内発力により、基本方針、目標設定及び実践を担っていくことがふさわしい。

しかしながら、高島町においては当面、地元住民が発揮できるマンパワーにはやはり大きな期待をかけることはできないと考えるのが妥当である。少ない人的資源をいかにして確保・拡充していくかは、高島町のみならずおよそ全ての離島が直面する重大な課題である。たとえば、「食」の魅カづくりの実践には、柔軟な発想と確かな技術を持つ料理人が必要であるし、また、本格的なタラソセラピーを提供するためには専門のセラピストや療養に関するアドバイザーなどの存在が必要である。そのような専門技術を持つ人材については、高島町におけるセラピーの推進に意気投合してくれることを前提に島外の人材を積極的に確保して施策を打ち出すべきである。また、隣接する伊王島町との連携強化の具体的な取り組みを行っていくことも大切である。高島町と伊王島町は、長崎港を拠点として同じ航路体系にあり、伊王島は炭坑の島からスポーツ・リゾートの舞台として生まれ変わった町で、島の復興という意味では高島の先輩格に当たる。ただし、伊王島でも一時期に比べると宿泊客数にかげりも見られ、観光・レジャー施策の立て直しは免れ得ない。本土（香焼町）との架橋も控えており、地域基盤整備や地域づくりの方針作成が大きな課題となっている。今後、両町にとって肝要なのは、無為な事業競合を避けて両島の持つ魅力を組み合わせ、長崎市からみた身近な「海の憩いの場」となるように、相互補完的共同戦線を展開する柔軟な行政対応である。

(2) 地域特性の把握と有効活用 ―海水温浴施設をコアとする総合プログラム構築への鍵―

自発的・自立的に積極的な健康づくりを実現するアイランドセラピー活動環境の提供・維持を可能にするためには、拠点となる施設の建設だけでは不十分であることは論をまたない。高島町の海水温浴施設は、自然治癒力にあふれた海水の力をフルにひきだすハード・ソフト・ヒュ

ーマンウェアの構築を目指し、それによって町全体に癒し(健康回復)、健康増進、さらには生命の輝き出る環境整備の実現を促すという相乗効果を狙っていることから考えても、アイランドセラピーは他の公共事業以上に、ハコモノ支援の公共投資では実現への道は拓けないと肝に銘じなければならない。高島町の海水温浴施設が真に事業の中核となるためには、地域の特性を丁寧に検証して地域資源を抽出し、それらの連携・調整を行う総合的なプログラム構築が、アイランドセラピーの実現への重要な鍵となる。

離島という空間(環境)が有する狭少性、環海性、良好な自然環境(気候)、ならびに固有性の高い地域資源は、アイランドセラピーにとってきわめて重要な要素である。高島町は温暖な海洋性気候に恵まれているだけでなく、外洋(海)に位置する本土近接型離島であり、黒潮(対馬海流)の影響下にあることから水質汚染の少ない海に囲まれている。陸地においても大きな工場や産業廃棄物処理場もなく、車輛の通行がほとんどないことから交通公害や大気汚染の心配が少なく、そのヒューマンスケールの生活環境、豊かな自然環境はアイランドセラピーの実現への最大のプラス要素である。

ビジターの増加と定着(ビジターのリピーター化)を目指す場合、立地の善し悪しが事業に多大な影響を及ぼす。有給の長期休暇の取りにくいわが国では、たとえ良好な自然環境等を備えた場所であっても日常圏からあまりにアクセスに時間がかかるとその価値が半減してしまうが、その点高島町は離島であるにもかかわらず、長崎市からの交通の便も良いため(高速船にて約30分)、良好な特性を有しているといえることができる。

高島町の主要な自然資源及び社会・文化資源は、図―6及び表―2に示す通りである。これらはすべて高島町におけるアイランドセラピーのアイデンティティ基盤として、その実践プログラムの構築に際して、海水温浴施設と関連づけて十分に検討すべき対象である。中でも高島町の独自性を際立たせている地域資源として注目すべきは、その炭鉱の歴史である。高島は石炭発見の地として全国的に有名であり、明治初年にはトーマス・グラバーが高島炭坑開発のためにこの地に洋館を建て居住する等、石炭開発の歴史に関して大変に由緒のある島である。オランダ式側溝や日本最初の洋式立て坑、そして現在は無人島と化した端島(軍艦島)の職員住宅、鉱員住宅(わが国最初のRC造高層アパート)、関連施設等々は、わが国の貴重な産業遺産として位置づけられている。これらに着目し、町では既にグラバー邸跡地や後藤象二郎邸跡、北溪井坑跡を一つの地域として保存活用計画を推進するとともに地底博物館や歴史資料館等を整備し、ミュージアムアイランド計画の推進を図っている。

離島である高島町は、海と気候に育まれた豊かな海洋資源と地下資源(石炭)の積極的な活用に支えられてきたが、今後は現存する資源の適切な保全と維持管理・活性化が課題である。21世紀は地域エネルギーの時代といわれ、地球温暖化に対応するために石炭、石油や原子力に替わるエネルギー源が真剣に求められつつある。その中で、エネルギーソフトパスといわれる風力やソーラーシステムや小規模水力発電等が再び注目を浴びつつある。高島町でも既に、将来構想として風力発電の導入を検討しつつある。また、ゴミにかかわる問題は、高島町においてもビジターが増えるに伴って増大する物理的な質量及びその島外搬出にかかる海上輸送コス

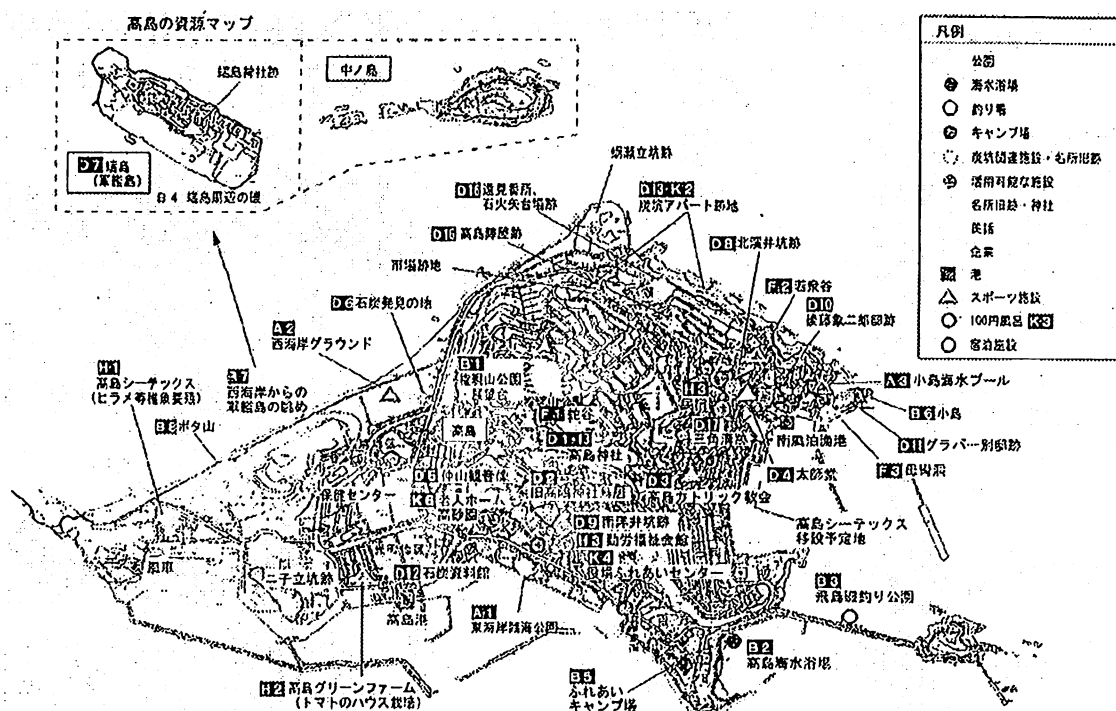
トの住民負担等の課題が深刻化し、廃棄物の処理に関しても現状把握、循環資源の分別利用等、循環型の社会形成に関する取り組みを行う必要性が出てきた。

このような状況を踏まえて考えると、高島町におけるアイランドセラピー実現へのキーワードが明確に浮かび上がってくる。それは、「エネルギー資源」「循環型社会」「健康」である。

高島町は、風力とソーラー及びコージェネレーションとのリンケージを図り、エネルギーのカスケード利用を図るような現代の最新のトレンドを取り入れて、循環型社会モデルを構築し、これを広く環境教育の場としてアピールできる地域特性を有している。アイランドセラピー事業のコンセプトに模範（モデル）的なエネルギーソフトパスパークを付加的に計画し、これに産業遺産としての軍艦島をリンクし、さらに循環型社会のシステムを加えることにより、高島町は21世紀における模範的な資源・エネルギー・健康に関する教育・情報の発信基地としてデビューが可能である。

近隣市町村や長崎県と連携し、エコ・ミュージアム的な発想の中に次世代型の物資、エネルギー、情報のかかわり方の再構築を図る。豊かな自然環境に基づく健康、自然にやさしい循環型社会、環境教育の島（産業遺産や地域エネルギーリンケージの提示）といったイメージを明確に打ち出して行くことが、今後の高島町の持続可能な発展にとってきわめて有効であると考えられる。

資源の採掘（石炭）から資源の育成とレジャー化（漁業）を成功させた高島町は、アイランドセラピーの実現によって、新しい位相へと飛躍する可能性を有しているのである。



図—6 高島町の主要地域資源マップ

表―2 高島町の主要な地域資源一覧

大区分	小区分	資源名	適した季節			
			春	夏	秋	冬
A 既存 スポーツ レクリエーション 施設	A-1 スポーツ公園 ・スポーツ施設	東海岸運動公園	○	○	○	○
		西海岸グラウンド	○	○	○	○
		町民体育館	○	○	○	○
		小島海水プール		○		
B 自然景観 野外活動	B-1 公園・広場 (運動公園を 除く)	権現山公園展望台	○	○	○	○
	B-2 海水浴適地・ ダイビングスポット	高島海水浴場		○		
	B-3 釣り場	飛鳥磯釣り公園	○	○	○	○
		端島周辺の磯	○	○	○	○
	B-4 キャンプ場	ふれあいキャンプ場	○	○		
	B-5 景観	小島	○	○	○	○
		西海岸からの軍艦島(端島)の眺め	○	○	○	○
		ボタ山の景観	○	○	○	○
C 展開可能 なスポーツ	C-1 海や浜で行う スポーツレクリエーション	海水浴		○		
		釣り	○	○	○	○
	C-2 陸や山で行う スポーツレクリエーション	ハイキング	○	○	○	
		サイクリング	○	○	○	
D 歴史、 文化資源	D-1 神社・仏閣	高島神社	○	○	○	○
		旧高嶋神社鳥居	○	○	○	○
		高島カトリック教会	○	○	○	○
		大師堂	○	○	○	○
		仲山観音堂	○	○	○	○
	D-2 石炭産業 関連資源	石炭発見の地	○	○	○	○
		軍艦島(端島)	○	○	○	○
		北溪井坑跡	○	○	○	○
		南洋井坑跡	○	○	○	○
		後藤象二郎邸跡	○	○	○	○
		トーマス・グラバー別邸跡	○	○	○	○
		石炭資料館	○	○	○	○
		炭鉱アパート跡地	○	○	○	○
		ボタ山	○	○	○	○
	D-3 その他の 文化資源	高島陣屋跡	○	○	○	○
		遠見番所石火台場跡	○	○	○	○
		三角溝(オランダ式側溝)	○	○	○	○

高島町（長崎県）におけるアイランドセラピー実現への取り組み

大区分	小区分	資源名	適した季節			
			春	夏	秋	冬
E 行事	E-1 スポーツ大会 E-2 交流イベント	東海岸運動公園	○	○	○	
		ふれあい夏祭り		○		
		高島青空楽校	○	○	○	
		ハンディを持つ人の海釣り初体験	○	○	○	
		UMI BOUZ IN 高島		○		
		ふれあい文化祭	○	○	○	○
F 生活主観、 風習、 伝統など	F-1 いいつつえ	蛇谷	—	—	—	—
		若衆谷	—	—	—	—
		母彎洞	—	—	—	—
	F-2 うた	浜節（長崎浜節）	—	—	—	—
		炭坑節	—	—	—	—
		高島節	—	—	—	—
		高島音頭	—	—	—	—
		端島音頭	—	—	—	—
G 動植物	G-1 樹木・植物	植栽	○	○	○	○
		自生アロエ	○	◎	○	○
		トマト	◎			
	G-2 動物	魚貝・海藻類	○	○	○	○
H 産業	H-1 漁業・養殖	ヒラメ等稚魚の養殖漁業	○	○	○	○
	H-2 農業	高島グリーンファーム			○	○
	H-3 観光	宿泊施設	○	○	○	○
		海水浴バック		○		
		釣りバック	○	○	○	○
I 特産品	I-1 特産品	高島トマト	○			
		トマトようかん	◎	○	○	○
		アロエそうめん	○	○	○	○
		たかしまの里（最中）	○	○	○	○
		イセエビ			○	○
		サザエ	○	○		○
J 人的資源	J-1 青年・婦人会	青年連絡協議会	—	—	—	—
		鼓響塾（民俗芸能グループ）	—	—	—	—
		町職員ボランティアチーム	—	—	—	—
		文化協会	—	—	—	—
K 公共施設	K-1 町営住宅	現存する町営住宅	—	—	—	—
		町営住宅（炭住）解体跡地	—	—	—	—
	K-2 公衆浴場	100円風呂（町営風呂）	○	○	○	○
	K-3 島内バス	島内バス	—	—	—	—
	K-4 役場庁舎等	庁舎・ふれあいセンター	—	—	—	—
		水産会館 養護老人ホーム「高砂園」	— —	— —	— —	— —

註

- 1) 文献2) 参照。
- 2) 本来、自然の川や湖、海等で行われていたアクティビティを身近な場所でより快適・安全・手軽に行えるように配慮したものが、浴槽（プール）施設の基本的な考え方である。水のアクティビティは「泳ぐ」「浮く」「潜る」「飛び込む」「漬る」「浴びる」「打たれる」「探まれる」「歩く」等の直接的な行動のほかに、「休む」「ながめる」「くつろぐ」等の行動を育む可能性を持っている。このような中で、特に「泳ぐ」「飛び込む」等を中心とした専門施設としては水泳プールが位置づけられ、また、「浮く」「漬る」「浴びる」等、様々なアクティビティが展開される専門施設は一般的に「自由時間（レジャー）プール」と言われてきた。また近年、積極的な健康づくり活動として水を利用した「健康増進」「健康回復」「保養」等のアクティビティが加わり、更に、治療・療養専門施設では「機能回復」「治療」等のアクティビティも展開されている。このように「浴槽（プール）」は、各種のアクティビティの受け皿として大きな可能性を持っている。
- 3) 海水には人間の生命維持に不可欠な微量元素が血液とほぼ同比率で含まれており、海水に含まれるミネラル成分や微量元素が人間の細胞の働きに作用し、健康や安定をもたらすことは、医学的にも実証されている。海水自体に殺菌作用があり、皮膚や粘膜の浄化、傷の治りを早める効果がある。また、海水の塩分が皮膚に付着すると体温放散が妨げられ保温効果が生じる。海水が飛沫となったり、噴霧されたりすると、海塩粒子やマイナスイオンが発生し、自律神経の安定や抵抗力の増強に効果があるetc. 海水温浴が人体に有効に作用するのは、海水や海洋性の気候がもたらすもの（清浄な大気やマイナスイオン、ヨードや海塩粒子、特有の光や輝き、海水の微量元素、開放的な風景や雰囲気、適度な運動とリラックスetc.）が皮膚や呼吸、食物等から体内に取り込まれて内分泌腺を刺激し、その人の心身を活性化させるからである。その結果、疲れやストレス等様々な要因によって妨げられていた（人間が本来備えている）自然治癒力が甦るのである。すなわち、海や海水はそれ自体で「患者を治す」という性質のものではなく、適したセラピーを施したり、自ら身体を動かすことによって生まれる物理的・心理的作用が、自発的な自然治癒力を湧きださせるきっかけとなり、その人自身が、内発的に快復していくのである。文献4）参照。

文 献

- 1) 福岡ほか（1998）：次世代型健康づくりに関する考察と提案（その3）—離島環境におけるアイランドセラピー活動の展開（人間の生命力・活力を創りだす）—，法政大学体育研究センター
- 2) 福岡ほか（1999）：次世代型健康づくりに関する考察と提案（その4）—離島環境におけるアイランドセラピーの実践施設事例紹介—，法政大学体育研究センター
- 3) 財団法人日本離島センター（2000）：平成11年度アイランドセラピー構想推進に関する調査報告書，財団法人日本離島センター
- 4) 福岡ほか（2001）：高島町海水温浴施設整備事業計画調査業務（コミュニティ・アイランド推進事業）報告書，日本スポーツ文化研究所